

外観



広い敷地を持つ東金市立東金中学校は、在籍生徒数565名（2016年）。約40年の経年劣化、耐震性判断結果、および昨今の生徒数の減少を背景として、同じ敷地内に新校舎を建設した。

1F廊下



県産材である山武杉を多用した校舎内。運動場に出る扉前にも、木製ベンチを点在させ、生徒同士や生徒と先生とのコミュニケーションの場として活用している。

2F男性トイレ 入口



女性トイレ同様に、大きなピクトと色分けにより遠くから見てもわかりやすいサイン計画になっている。

2F男性トイレ 全体



トイレの入り口近くに大便器コーナーを配置し、入り口からすぐブースに入れる。またアイランド型の洗面器の鏡が、目隠しかわりとなり、大便器コーナーへ入る生徒への視線を遮る配慮を施している。

2F女性トイレ 入口



大きなピクトと色分けにより、遠くからでも男女トイレがひと目で見つけられるように工夫している。

2F女性トイレ トイレ全体



生徒同士コミュニケーションが取りやすいように、アイランド型の手洗いカウンターを設置。衛生面を考慮し、ノンタッチで水の出し止めができる自動水栓を採用している。

2F男性トイレ 小便器コーナー



窓から自然光が差し込む明るい小便器コーナー。床の清掃性に優れた低リップタイプの壁掛小便器を採用している。

2F男性トイレ 大便器ブース内



大便器は、床の清掃性に優れた壁掛式便器を採用。

2F女性トイレ 身繕いコーナー



洗面コーナーの近くには、身だしなみチェックができるよう全身鏡を設置。荷物配慮としてアイランド型の手洗いカウンターを囲むように、ベンチを置いている。

2F女性トイレ 大便器ブース



大便器は、床の清掃性に優れた壁掛式を採用。建て替え以前は、和式便器も採用していたが、湿式清掃から乾式清掃への変更も考慮して、全ブース洋式便器が採用された。

2F踊り場 洗面コーナー



教室前近くの踊り場に設置している洗面コーナー。カウンターとボウル面が一体成形になっているため、水じまいがよく掃除がしやすくなっている。

2F踊り場 洗面・歯みがきコーナー



教室近くの踊り場に手洗いと歯みがきコーナーを設置。コミュニケーションスペースとして活用できるようにベンチを設置している。床の材質を変えることで、ウェットとドライエリアを明確に分ける工夫を施している。

3F女性トイレ 身繕いコーナー



フロアごとに異なるタイプの身繕いコーナーを設置。荷物置きとして活用できるように、身繕いコーナーのカウンターを延長している。

3F男性トイレ 全体



アイランド型洗面器の奥には、男子生徒も身繕いがしやすいように、全身が映る姿見を設置。

1F来客用女性トイレ 大便器ブース内



さまざまな利用者が訪れる来客用トイレは、袖付タイプのウォシュレットPSを設置。操作ボタン部分には、英語・点字を併記している。

1F来客用男性トイレ 小便器コーナー



使用後の毎回洗浄に加えて、排水管内に滞留する尿の混じった汚水を定期的に排水管洗浄し、尿石の付着を抑制するインターバル洗浄を搭載した自動洗浄小便器を採用。

3F男性トイレ 小便器コーナー



小便器コーナーの左右2ヶ所は、視線を遮る配慮として、仕切りを設けた半個室を設置。生徒たちに人気が高く、使用頻度が高い。

3F男性トイレ 大便器ブース



大便器ブースの1ヶ所は、立ち座りをサポートするL字型の手すりを設置。

1F保健室内 水まわり



(写真左) 向かって左:多機能トイレ 右:シャワー室 正面:教室へ通じる扉。(写真右)シャワー室にはベンチを設置。脱衣場には、汚れた衣類などを洗濯するための洗濯機を設置している。

1F保健室内 多機能トイレ



大便器の横には、自動水栓を設置した洗面器を設置。車いす利用者の使用に配慮して、大便器前のスペースを広く確保している。

1F来客用 入口



行事等で学校を訪れる来客用のトイレ。トイレの入口は、白を基調とし清潔感が漂う。

1F来客用 女性トイレ 洗面コーナー



生徒用トイレと同様に、丸型ベッセルタイプの洗面器を採用。洗面コーナーには全面鏡を配し、トイレ空間を広く見せる演出にもなっている。

建築概要	
名 称	東金市立東金中学校
所 在 地	千葉県東金市堀上111番地
施 主	東金市役所
設 計	株式会社豊建築事務所
施 工	畔蒜(あびる)工務店
竣 工 年 月	2016年3月

水まわりの特長
<施設の概要> 1971年創立の東金市立東金中学校は、約40年の経年変化による施設劣化および耐震性診断の結果、さらに昨今の生徒数の減少による未使用教室の増加を背景として、同じ敷地内に新校舎を建設した。新校舎の内装材には、生徒達が触れる壁・床材に県産材である山武杉を多用。郷土を愛する心の育成とともに、木の温もりを肌で感じられるように配慮した。1F踊り場やトイレにも木のベンチを設置し、生徒同士や先生とのコミュニケーションの場として活用している。旧校舎の解体は順次行う予定となっている。
<トイレの特長> 建て替え前の校舎では、和式便器が主に設置されていたが、教育委員会からの要望および家庭で使用されている現状から、全ブース洋式便器を設置した。設置便器の変更に伴い、清掃方法も、においの発生や雑菌が繁殖しやすい水を流す湿式清掃から、モップで床を拭く乾式清掃へ変更。さらに、壁掛け式の大便器の採用により、床の清掃性に配慮した。全フロア男女トイレとも、アイランド型の洗面コーナーを設置し、またトイレ内にはベンチ兼荷物置き台を設けることで、生徒同士が楽しくトイレでコミュニケーションが図れ、自然と会話が生まれる工夫を施した。学年ごとに階が異なるため、トイレ空間の色分けもされている。